



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えなさい。

2021年3月25日朝刊

ニュースBOX



海を一望できる大きな窓と高い天井、丸柱が特徴的な
テーテンス邸を改修したジョン・キャンティロンさん
＝2月下旬、熱海市伊豆山

モダニズム建築 活用か解体か

熱海の「住宅」民泊に再生 保存へ調査と評価進む

世界的建築家ル・コルビュジエに師事し、戦後の建築界をけん引した前川国男（1906～86年）が戦前に設計した熱海市内の木造住宅が民泊施設として再生され、新たな保存のあり方として関心を集めている。一方、建物の一般的耐用年数は50～70年といわれ、コルビュジエの流れをくんだ戦後モダニズム建築の多くが保存か解体かの岐路に立たされている。

住宅はドイツ人空調技師アウグスト・ベーター・テーテンスのために設計し、42年完成した。2006年に購入した米国人ジョン・キャンティロンさん（右）が改修し、仲間と民泊「福村ハウス」として昨夏開業後、前川建築と判明した。

■重文級の価値
今後は活口費を運営に活用し、冊子の発行やツアーなどの観光活用も視野に入れる。運営する佐々木幸寿さん（68）は「この事例に関する論文を、近代建築の記録・保存を目的とした国際組織「ドコモ」が今夏東京で開く国際会議で市長の立場から発表する。

■見慣れた景観
近年は、前川国男建築設計事務所（当時）出身の丹下健三が手掛けた広島平和記念資料館（55年）をはじめ、モダニズム建築が重要文化財に指定され始めた。ただ、十分な評価がされないまま取り壊される事例も増えている。この現状を受け、文化庁は2015年度、戦後から20世紀末までに造られた建築を対象に緊急調査を始めた。それ以前は、リストも公的には存在しなかった。

18年度に県内で実施した調査は、解体される建築物も対象だった。調査した常葉大の土屋和男教授（近代建築史）は「学校や団地、病院など、戦後のある世代にとってはあまりにも見慣れた景観で価値がわかりづらい」と分析し、身近な町並みを地域の財産として見直す機運づくりの必要性を訴えた。

現代教育屋敷を確立した吉田五十人が設計し、戦役中や戦災者の追悼のために旧清水市が59年建立した聖霊堂も同じ、惜しまれつつ解体が決まった。背景には建築会の高齢化や耐震性不足のほか、コンクリートの保存技法が未確立なことも大きい。土井（せきやう）が特徴的なデザインも「外観を生かした補強は難しい」と静岡市の担当者は説明する。

同会執行委員長の山名善之（建築史学）によると、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関であるイコモスや文化庁も、建造時のままの保存から、修理・改装し観光施設などに活用しながらの保存に方針が変わった。現時最先端の暖房技術が導入された可能性が高いテーテンス邸と、戦中戦後の熱海伊豆山地区における知識人別荘地の発見は、重要文化財級の価値がある。当時の様を守りつつ活用してほしい」と期待する。佐々木さんは「狙われるモダニズム建築

①戦後の建築界をけん引した前川国男の事務所出身で、広島平和記念資料館や静岡新聞・静岡放送本社ビルなどを設計したモダニズム建築に関わりのある人物とは誰か。記事の中から抜き出さない。

()

②明治時代に来日して鹿鳴館などを設計したコンドルに学び、東京駅や日本銀行本店などを設計した日本の建築家とは誰か。

()

③世界的建築家であるル・コルビュジエの流れをくんだ戦後モダニズム建築の多くが保存か解体かの岐路に立たされているが、最近関心を集めている新たな保存のあり方にはどのような例があるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

[]

④個人住宅などのモダニズム建築を保存していくためには、耐震性不足などによる解体問題以外に、今後どのようなことが必要になると考えられるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

[]

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 伊藤大介 (静岡聖光学院中学・高校 教諭)

(高校/社会、総合)



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年3月25日朝刊

ニュースBOX



海を一望できる大きな窓と高い天井、丸柱が特徴的な
テネンズ邸を改修したジョン・キャンティロンさん
＝2月下旬、熱海市伊豆山

モダニズム建築 活用か解体か

熱海の「住宅」民泊に再生 保存へ調査と評価進む

世界的建築家ル・コルビュジエに師事し、戦後の建築界をけん引した前川国男（1906～86年）が戦前に設計した熱海市内の木造住宅が民泊施設として再生され、新たな保存のあり方として関心を集めている。一方、建物の一般的耐用年数は50～70年といわれ、コルビュジエの流れをくんだ戦後モダニズム建築の多くが保存か解体かの岐路に立たされている。

住宅はドイツ人空調技師アウグスト・ベーター・テネンズのために設計し、42年完成した。2006年に購入した米国人ジョン・キャンティロンさん（67）が改修し、仲間と民泊「福村ハウス」にして昨夏開業後、前川建築と判明した。

■重文級の価値

今後は民泊費を運営に活用し、冊子の発行やツアーなどの観光活用も視野に入れる。運営する佐々木幸寿さん（68）は「この事例に関する論文、近代建築の記録・保存を目的とした団体の組織「ドコモ」が今夏東京で開く国際会議で市長の立場から発表する。

同会議実行委員長の山名孝之（東京理科大学教授）は「建築史学による近代、国史教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関であるイコモスや文化庁も、建造時のままの保存か、修理・改装し観光施設などに活用しながらの保存に方針が変わった。現時最先端の暖房技術が導入された可能性が高いテネンズ邸と、戦中戦後の熱海伊豆山地区における知識人別荘地の発見、は重要文化財級の価値がある。当時の様を守りつつ活用してほしい」と期待する。佐々木さんは「狙われるモダニズム建築

■残しつつも

「一戸、テネンズ邸近くに同時建てられた前川の別荘約5年前に解体された。前川建築設計事務所の本功所は約30年前に保存のため複製に訪れたが、前川の死後は調査が難しくなっていた。一戸住宅は築家の成長や時代とともに変化するため、別荘地の個人住宅にははきかず、残らう」と話す。

現代教育屋敷を確立した吉田五十人が設計し、戦後や戦災の追悼のために旧清水市が59年建立した盛器も同じ、惜しまれつつ解体が決まった。背景には建築会の高齢化や耐震性不足のほか、コンクリートの保存技法が未確立なことも大きい。土塚（せんごう）が特徴的なデザインも「外観を主とした補強は難しい」と静岡市の担当者は説明する。

■見慣れた景観

近年は、前川国男建築設計事務所（当時）出身の丹下健三が手掛けた広島平和記念資料館（55年）をはじめ、モダニズム建築が重要文化財に指定され始めた。ただ、十分な評価がされないまま取り壊される事例も増えている。この現状を踏まえ、文化庁は2015年度、戦後から20世紀末までに造られた建築を対象に緊急調査を始めた。それ以前は、リストも公的には存在しなかった。

18年度に県内で実施した調査は、解体される忠孝堂も対象だった。調査した常葉大の土屋和男教授（近代建築史）は「学校や病院、病院など、戦後のある世代にとってはあまりにも見慣れた景観で価値がわかりづらい」と分析し、身近な街並みを地域の財産として見直す機運づくりの必要性を訴えた。（文化生活部・菊地真生）

①戦後の建築界をけん引した前川国男の事務所出身で、広島平和記念資料館や静岡新聞・静岡放送本社ビルなどを設計したモダニズム建築に関わりのある人物とは誰か。記事の中から抜き出さない。

（ 丹下健三 ）

②明治時代に来日して鹿鳴館などを設計したコンドルに学び、東京駅や日本銀行本店などを設計した日本の建築家とは誰か。

（ 辰野金吾 ）

③世界的建築家であるル・コルビュジエの流れをくんだ戦後モダニズム建築の多くが保存か解体かの岐路に立たされているが、最近関心を集めている新たな保存のあり方にはどのような例があるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

（例）前川国男が戦前に設計した熱海市内の木造住宅を民泊施設として再生した例。

④個人住宅などのモダニズム建築を保存していくためには、耐震性不足などによる解体問題以外に、今後どのようなことが必要になってくると考えられるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

（例）住宅や病院などは、戦後のある世代にとっては見慣れた景観で価値がわかりづらいので、身近な街並みを地域財産として見直す機運づくりが必要になってくると考えられる。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 伊藤大介（静岡聖光学院中学・高校 教諭）

（高校／社会、総合）